

# 言葉の世界への新たな窓を開く

▼言語力

藤澤伸介著

認知と意味という視点からみて、言語はどのような特性を持っているのかを解き明かし、言葉のもつ力を構造的に語る

秋田喜代美



私たちには、日々言葉を使つて社会生活を送っている。に

いだろう。

もかかわらず、言葉がどのような機能を果たしているのか、それはなぜかといふ心理的なメカニズムについて十分なことを意識しているわけではない。なぜ他のとのコミュニケーションで時に誤解がうまれたり、心を傷つけること生じたりするのか、一方でその人の話は分かりやすく説得的だと納得したりするのか。それには、きちんととした理由がある。しかしながら、そのしくみを学校や大学で体系的に教わってきた人は少な

いだろう。本書は、この言語使用の意味のメカニズムを一般意味論の入門書として、著者が何年もかけて集めてきた身の回りの具体的な事例や、心理学的研究例という事例を基にして紹介している。いわゆる言語力二ケーションで時に誤解がうつされるはどうしたらよいのか、どのように指導したらよいか、どのように対応すればよいかなどといった体験談の書ではない。タイトルの副題に記されている通り、認知と意味と

かを解き明かし、言葉のもつ力を構造的に語る書である。「動物は話せるのか」「うわさに尾ひれがつく時」「辞書は最高権威か」「意味不明でもお経はありがたい」「スイカは野菜か果物か」等々、つた章の副タイトルをみると、身に覚えがあると思いつながらも、改めて考えてみると、どう違うだろう。言語について振り返ることで洞察が深まるといふ意味で、類書はこれまでない新たな挑戦の学術書である。

本書の中心となる考え方の一つが、「内在的考え方対外的考え方」の対比であり、後者の外在的考え方のすめである。内在的考え方とは、文脈や個別性を無視して二値的思考に陥ったり、抽象度を上げるのに必要と指摘するが、科学的リテラシーの育成と読書のすすめである。科學的リテラシー」というと教科書が盛りだくさん紹介されてもせひととも読みでもらいたい。どの人にも関わる実例が盛りだくさん紹介されている。言葉の世界への新たな窓を開き、知的刺激を与えるだろう。

現代社会の中に氾濫している広告がある。感性に訴えたり考え方である。その典型に、や、私はこうやって言語力をつかたといふ体験談の書ではない。その指向性は、言葉はどのような特性を持っているのかを解き明かし、言葉のもつ力を構造的に語る。これに対し、後者の外在

的考え方は論理的な必然性を力を持つ言葉である。

問い、主張に根拠があるかどうかを考え、文脈を把握して

れる指導こそが大切だと

認知と意味の心理学  
3・30刊 四六判二八四頁 本体一四〇〇円  
新曜社

藤澤伸介著

の意味で効率的な教育への特徴を示す。この意味で効率的な教育への特徴を示す。この意味で効率的な教育への特徴を示す。

。

。この意味で効率的な教育への特徴を示す。この意味で効率的な教育への特徴を示す。この意味で効率的な教育への特徴を示す。

。